

# 景況感の厳しさは変わらず！先行きについてはわずかな明るさも！

－ 2015年1月～3月期 中小企業景況調査報告書概要－

日銀が4月1日に発表した3月の企業短期経済観測調査（短観）によると、企業の景況感を示す業況判断指数（D・I）は、大企業・製造業で前回12月調査と同じプラス12となっている。加工型業種の改善幅が小さく、円安が一服していることが影響している模様である。大企業・非製造業のD・Iはプラス19と2ポイント改善した。特に、小売りが7ポイント改善して景況感もプラスBに転じている。春闘での賃上げなど家計に好影響が見込まれることが寄与していると思われる。中小企業・製造業では、前回12月調査より3ポイント悪化しプラス1となり、何とかプラス圏で踏みとどまっている。反対に、非製造業は12月調査から2ポイント改善してプラス3となり、改善の兆しを見せている。

3か月後の先行きの見通し（本年6月予測）は、大企業・製造業がプラス10と今期より2ポイント悪化、製造業はプラス17と2ポイントの悪化と予測。中小企業においては、製造業が今期より1ポイント悪化し±0、非製造業は4ポイント悪化しマイナス1となっており、大企業よりもさらに厳しい先行きを示している。

内閣府が3月23日に発表した3月の月例経済報告においては、国内景気の基調判断を「企業部門に改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続いている」と引き上げて8カ月ぶりに上方修正した。生産に関しては「持ち直している」として判断を引き上げている。一方、個人消費は「総じてみれば底堅い動きとなっている」とし判断は据え置いた格好になっている。先行きに関する基調判断では、「消費マイン

ドの弱さ」という表現が削除されたが、それ以外は従前と同じく、雇用・所得環境の改善が続かなかで緩やかに回復していくとするこれまでの判断を維持した。

商工会地域の景況調査においては、今期（2015年1月～3月）の業況に関するD・I値は、マイナス幅が小さい順に、建設業マイナス19.1、製造業がマイナス34.5、サービス業がマイナス43.3、小売業がマイナス52.5となっており、前期とは製造業とサービス業の順序が逆転している。前期より改善しているのが製造業と建設業で、製造業は前期より3.4ポイント、建設業は0.9ポイント改善している。小売業とサービス業は悪化させており、小売業が2.5ポイント、サービス業は5.6ポイント悪化させている。小売業においては、前期（マイナス50.0）よりさらに悪化しマイナス52.5と依然として深刻な状況となっている。

来期（2015年4月～6月期）の業況予測については、建設業だけが0.9ポイント悪化すると予測しているが、製造業は21.5ポイント、小売業が15.0ポイント、サービス業も2.2ポイント改善すると予測している。

今期の商工会地域の景況感は、いつものことである日銀短観や月例経済報告とは乖離して厳しいものとなっているが、先行きについては、製造業などで日銀短観よりは明るい予測が出ているように思われる。政府の経済対策や春闘のベアアップ等が浸透して、商工会地域でも改善の動きが定着することを期待する。

（中小企業診断士 橋本大輔）

## 業界天気動向図

項目	売 上				採算（経常利益）				資金繰り			
	4 月 6 月	7 月 9 月	10 月 12 月	1 H 27 3 年	4 月 6 月	7 月 9 月	10 月 12 月	1 H 27 3 年	4 月 6 月	7 月 9 月	10 月 12 月	1 H 27 3 年
製造業												
建設業												
小売業												
サービス業												

各項目については次により表示した。

区 分	増 加	やや増加	横ばい	やや減少	減 少	大幅に減少
	好 転	やや好転		やや悪化	悪 化	非常に悪化
D値(前年同期比)	20.1～	5.1～20.0	5.0～△5.0	△5.1～△20.0	△20.1～△35.0	△35.1～
表 示	快晴	晴れ	曇り	小雨	雨	豪雨

## 今期直面している経営上の問題点需要の停滞

（数値の左は前期構成比、右は当期割合を%で記す）

業 種	1 位		2 位		3 位		4 位		
製造業	1 位にあげる問題点		2 位		3 位		4 位		
	需要の停滞		製品（加工）単価の低下、上昇難		製品ニーズの変化		大企業の進出による競争の激化、新規参入業者の追加、生産設備の不足・老朽化		
前期	40.7	28.0	14.8	24.0	11.1	20.0	—	4.0	
今期	40.7	28.0	14.8	24.0	11.1	20.0	—	4.0	
建設業	1 位		2 位		3 位				
	1 位にあげる問題点		2 位		3 位				
	官公需要の停滞、材料価格の上昇		請負単価の低下、上昇難		取引条件の悪化、熟練技術者の確保難、民間需要の停滞				
前期	22.2	27.8	16.7	16.7	—		11.1		
今期	22.2	27.8	16.7	16.7	—		11.1		
小売業	1 位		2 位		3 位		4 位		
	1 位にあげる問題点		需要の停滞		販売単価の低下、上昇難		買力の他地域への流出、消費者ニーズの変化、仕入単価の上昇		
前期	16.7	16.7	21.4	14.3	7.1	11.9	—	9.5	
今期	16.7	16.7	21.4	14.3	7.1	11.9	—	9.5	
サービス業	1 位		2 位		3 位		4 位		5 位
	1 位にあげる問題点		利用者ニーズの変化		人件費以外の経費の増加		従業員の確保難		新規参入業者の増加店舗施設の狭隘老朽化
前期	21.2	22.6	13.5	18.9	3.8	11.3	9.6	9.4	—
今期	21.2	22.6	13.5	18.9	3.8	11.3	9.6	9.4	—